

研究努力事項

1 研究主題

お互いのよさを認め合い、共に高まり合う子どもを育てる。
－基礎・基本（国語科）の取り組みを通して－
（4年次）

2 主題について

【確かな学力と国語力について】

今、子どもたちを取り巻く状況は、急速に変化し、価値観の多様化、国際化、情報化へと進んでいる。また、子どもに関わる社会問題も深刻化している。そうした中で、学校には、これまで以上に子どもたち一人ひとりに「生きる力」をつけることが求められている。そのためには、「確かな学力」を育成するための取り組みを充実させる必要がある。知識や技能だけでなく自ら学ぶ意欲や主体的に考え、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力などを子どもたちにつけていかなければならない。

確かな学力 知識や技能、学ぶ意欲や問題解決力、論理的な思考力や表現力 を身につけるためには、ことばの力、つまり、国語力を身につけることが必要である。そのためには、「話す」「聞く」「書く」「読む」といった基礎的・基本的な技能を習得させるとともに、「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」を育てる取り組みを展開していかなければならない。

本校の研究主題も4年次となる。「すべての教科の基礎は、国語力」と位置づけ、他教科等との関連も図りながら、豊かなことばの力、国語力の育成をめざして一層、研究と実践を進めていきたい。

【白島小の児童の実態】

研究紀要（平成17年度）の学年年間経営案から全体的に本校の児童の実態を分析してみると次のようにまとめられる。

- ・全体的に明るく素直で、活動的な子どもが多い。
- ・基本的な生活習慣・基礎学力が十分定着していない子がいる。
- ・自分の思いや考えを言葉で表現できにくい子がいる。
- ・友だちとの関わり方が希薄である。

これに加えて、「読む」という領域について実態を考えてみると次のような傾向が見られる。

- ・ 国語の文章だけでなく、いろいろな場面で書いていることを読み取れないことが多い。
- ・ 答えがはっきりしているときには発表しても自分の思いや考えを問われると自信をもって答えることができない。
- ・ 音読、読み取り、読書などどの分野でも読む力の個人差が大きい。
- ・ 語彙力や表現力などの不足から子ども同士のトラブルがよく起きる。など

「読む」は、3領域の基礎であり国語教育の原点であると考え。その点で白島小の児童の実態を考えてみると上記のように多くの課題があると考え。そこで、4年次は、3年次に取り組んできた成果と課題を踏まえ全学年で「読む」の領域を中心に、より目標を明確にしながら継続して取り組んでいきたい。

3 年次計画

- <1年次> 「学ぶ力」を育成することで、ものごとに主体的に関わっていこうとする子どもを育成する。
- <2年次> 「学ぶ力」を育成することで、ものごとに主体的に関わっていこうとする子どもを育成する。 「学ぶ力」を学年でもっと焦点化、具体化する。
- <3年次> 「読む」を中心に取り組むことで自分の考えをしっかりと表現できる子どもを育成する。
- <4年次> 「読む」を中心に取り組むことで自分の考えを表現し、互いに深め合える子どもを育成する。(本年度)

4 具体的な研究推進の方向

つけたい力

読むことを通して、自分の考えを表現し、互いに深め合う。

基本的な考え方

「読む」について

「読む」ことで、「考える力」(論理的思考力)や「感じる力」「想像する力」(情緒力)が身に付くと考えられる。また、感性豊かで、他人を思いやる心を育てるなど豊かな人間形成の面からも大事である。本校では、そのような考え方や見方を育てるために「読む」ということを音読、様々な文章の読み取り、読書など幅広く捉えて実践していきたい。

「表現する」について

発表するだけでなく、「書く」ことも表現であると考え。書くことは、自分の考えを整理することになる。本校では、書くことも積極的に取り入れながら自分の考えを発表し、互いの考えに共感したり深め合ったりできるような授業をめざしていきたい。

学級づくりの大切さについて

安心して何でも言える教室でないと自分の考えを豊かに表現することはできない。この点も大切にしていきたいことのひとつである。

- (1) つけたい力「読む」の系統性を明らかにする。(別紙)
- (2) 国語科における「読み」を深めるための具体的な取り組み

音読・朗読

日常的な活動

- ・国語の授業の中で継続的に 発声練習、詩の音読・暗唱、群読、教科書单元など

全校的な活動

- ・参観日での公開 *保護者へのアピール
- ・集会(平和集会、6年生を送る会、他学年との交流など)

読み取り(物語文、説明文、詩、俳句など)

[授業研究の視点]

- (1) 自分の考えを表現する授業のあり方
- (2) 広め深め合う授業のあり方
- (3) 個人差を考えた授業のあり方

討議の柱と連動させる。

読書

- ・図書館・学級文庫の利用
- ・学級での読書指導(読み聞かせなど)
- ・図書館ボランティアとの連携

上記の3つは、関連し合っていると捉える。

5 その他

言語環境の整備

- ・校内・教室の掲示(詩、俳句など)
- ・あいさつ・声かけ運動
- ・言葉の使い方

国語科と他教科・「総合的な学習の時間」との関連

家庭、地域との連携

- ・「読む」ことへの理解(懇談会、学年だより、学校だよりなど)

- ・家庭での音読や読書
- ・家庭や地域における会話、コミュニケーションの大切さ